資料５

沖縄県海外留学生受入事業
（ウチナーンチュ子弟等留学生）
フォローアップ調査　結果報告書

沖縄県

文化観光スポーツ部交流推進課

ウチナーンチュ子弟等留学生事業概要

【目的】

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

【事業のあゆみ】

1903 年、本県から世界各国への海外移住が始まって以降、その移住者たちは各国で県人会などの独自のコミュニティーを作り活動している。そういった海外移住者の子弟を対象とし、沖縄県が昭和４４年に海外留学生受入事業を開始、ボリビアからの県系人子弟留学生を受入れて以来、「アジア諸国等留学生」等を含め、これまでに１５カ国１地域からのべ６１４人を受入れている。

【事業内容】

本事業では、留学生は「科目等履修生コース」または「伝統芸能修得コース」にて就学・研修を行う。

①　科目等履修生コース

Ａ：日本語＋科目選択 （１年）	県内の各大学で科目等履修生として就学します。
Ｂ：日本語＋科目選択＋企業等研修 （１年）　　（６ヶ月）	科目履修修了後、実際に県内の企業に入って研修します。

②　伝統芸能修得コース

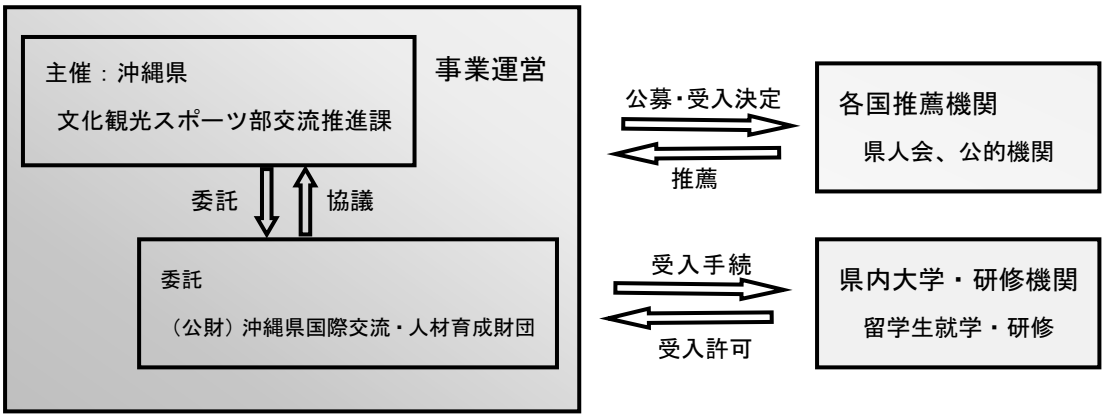
日本語学校＋伝統芸能・工芸研修 （３ヶ月）　　（９ヶ月）	県内の日本語学校で３ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で９ヶ月間技術研修を実施します。 ※日本語学校は研修生の語学力により判断します。
漆器、紅型、三線作成、花笠作成、琉球料理（沖縄料理）、空手等	

【運営体制】

沖縄県からの委託をうけて、（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団（以下「財団」。）が沖縄県と連携しながら当事業を実施した。

留学生の選考・決定については、財団が各国の推薦機関へ留学生を公募し、推薦のあった候補者から県と協議のうえ決定した。

受入が決定した後、各々の大学や研修機関へ出願、受入許可を得て就学・研修を行う。



【受入実績】

（ア）海外移住者子弟留学生受入状況（留学期間１年）

国名＼年度	開始年度	～12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	合計
ボリビア	S.44	31	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	2	2	1	1	3	48
ブラジル	S.45	65	3	2	3	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	97
アルゼンチン	S.46	35	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	4	2	4	2	1	1	65
ペルー	S.49	39	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	2	2	2	2	66
米国（ハワイ）	S.55	32	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	43
米国（本土）	S.56	24	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	0	1	0	1	2	3	41
カナダ	S.58	21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	32
メキシコ	H.1	12	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
イギリス	H.24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計		259	12	11	11	9	9	8	7	7	9	8	9	9	10	9	9	12	408

（イ）アジア諸国等海外留学生受入状況（留学期間１年）

年度 国名	開始年度	～9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	27	28	合計
台湾	S.57	29	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	58
フィリピン	S.57	13	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
タイ	S.58	16	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
シンガポール	S.59	14	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
マレーシア	S.60	13	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
インドネシア	S.60	13	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
韓国	S.63	17	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
中国（福建）	H.７	5	2	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	28
計		120	11	8	11	11	10	9	5	4	3	3	3	3	3	1	3	3	211

※平成２７年度１０月から台湾、中国（福建省）に限定して再開。

（ウ）ボリビア移住者子弟農業留学生受入事業（留学期間２年）

年度 国名	開始年度	～6	7～8	9～10	11～12	13～14	15～16	17 以降	合計
ボリビア	S.57	5	1	1	1	1	1	0	10

※平成１９年度をもって終了

（エ）海外留学生受入実績（ア～ウの合計）

年度 国名	開始年度	～11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	合計
合計	S.44	394	23	24	21	21	14	13	11	10	10	12	11	10	9	10	9	12	15	629

沖縄県海外留学生（ウチナーンチュ子弟等留学生）受入事業
現況調査　結果報告

１．目的

１９６９年より開始された沖縄県海外留学生受入事業について、これまでの成果を踏まえ、当該事業活性化に向けて、帰国後の留学生の現況を確認する調査を行う。

２．調査期間

平成２８年２月２４日～平成２８年４月３０日

※　これ以降に提出された調査票についても記載している。

３．調査対象

平成２７年度までの沖縄県海外留学生受入事業の参加者　６１４名

４．調査方法

調査者が配布する沖縄県海外留学生現況調査票へ対象者が記入し、所属推薦機関を通して調査者へ回答する。

調査票は日本語、スペイン語、英語、中国語を配布し、回収したものを日本語に訳した。

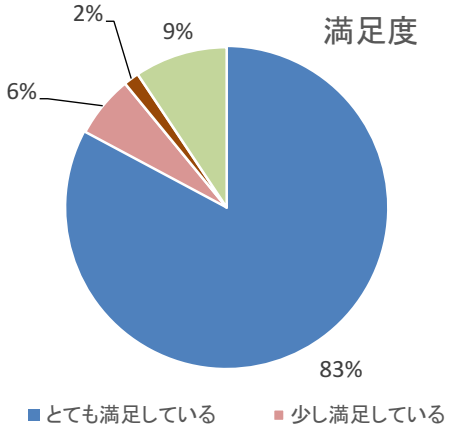
５．調査票回収状況

回収数：帰国留学生　６４票　（有効回収率：１０．４％）

６．回答総括

志望動機

〇沖縄の文化、歴史、日本語を学びたかった
〇自身のルーツである「沖縄」のことも理解したかった。
〇沖縄で生活、沖縄県民と交流しながら、自身の専門分野のキャリアアップをしたい。



満足度

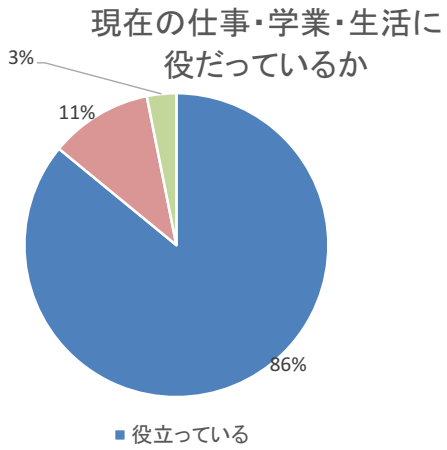
＜とても満足している＞　　83%（53名）
〇期待以上にたくさんの知識と経験を得ることができた。
〇広い視野を持つことができるようなった。
〇人生のターニングポイントとなる経験だった。
〇沖縄で貴重な友人、先生に出会うことができた。

＜少し満足している＞　　6%（4名）
〇学びたい専門分野について、技術のある企業が少なかった。
〇研修・留学のプログラム以外で、もっと沖縄の文化を学びたいと思った時に、自分たちで探さなければいけなかった。

＜満足していない＞　　2%　（１名）
〇大学の日本語プログラムについて、自身に合うレベルの授業が１つしか無かった。
〇講義はおもしろく、ためになったがた、沖縄の歴史や文化に触れる機会は少なかった。

(就職・就学している方)現在の仕事、学業、生活に役立っているか

＜役立っている＞　　86%（55名）
〇身につけた日本語能力が仕事に役立っている。
〇身につけた専門知識を活用して仕事に就くことができた。
〇どんなに困難なことでも、努力すれば達成できることを知った。



＜役にたっていない＞　　11%（7名）
〇留学・研修で学んだことと全く違う仕事をしている。

仕事・学業以外で生活に役立っているか。

＜役立っている＞　　73%　（４７名）
〇沖縄の心や習慣、精神（ぬちどぅ宝、いちゃりばちょーでーなど）を生活に取り入れている。
〇学んだ技術を活かして、学校での体験講座や、出身国でワークショップを行っている。
〇次世代への文化継承のための活動を行い、興味や関心を向上させている。

＜役立っていない＞　　0%　（０名）
※就業・学業をしている者、無回答のもの１７名

留学期間中にこまったこと（複数回答可）

＜言語＞　23%（15名）

〇生活の面で困ることがあったが、周囲の助けもあり解決できた。

〇書類を書くときに苦労した。

〇日本語が理解できずに、フラストレーションがたまることがあった。

＜食べ物＞　3%（２名）

〇普段ペルーで食べていたものが高価で、食生活を少し変える必要があった。

＜友人関係＞　9%（６名）

〇近くに親戚が住んでいても、寂しいときはあった。

〇（交友関係が広げられる）他の活動を紹介して欲しかった。

〇出身国の友だちに忘れられるのでは無いかと心配になった。

〇日本人学生との交流がなく、外国人の友だちばかりだった。

〇人間関係が複雑。

＜住居＞　13%（８名）

〇琉球大学の寮に、エアコンがなく、夏の暑さは耐えがたかった。
　共用施設があまり綺麗ではなかった。

〇アパートの部屋に、前に住んでいた人のゴミや物が残っていて、それを自分が片付けなきゃいけないと思うと嫌な気分だった。

〇名桜大学の寮は山の上にあり、交通手段が不便だった。

〇親戚から借りたテレビを持っており、ＮＨＫの支払を求められた。

＜生活費＞　9%（６名）

〇値段の基準がわからず、ボリビアの通貨に換算するととてもではないが手が出なかった。

〇生活費が高かった。

〇バス、タクシーが高かった。

＜生活習慣＞　22%（１４名）

〇ゴミの分別になれるのに時間がかかった。

〇共同風呂が嫌だった。次第になれた。

〇訪問営業、勧誘をどう断って良いのか困った（ＮＨＫ、宗教勧誘）

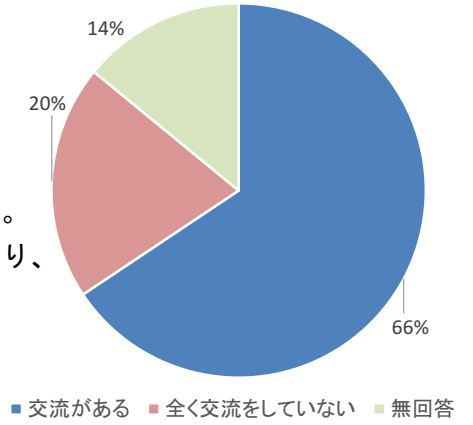
〇カルチャーショックを受けることがあったが、良い経験ができてありがたく思っている。

〇何かを勧めたときに、本当にいらないのか、遠慮しているのかわかりずらい。

＜その他＞　　14%　（９名）
○公共料金に関することや携帯電話など、自分たち自身で理解しなければいけないことが多くて驚いた。
○沖縄とその文化すべてを見る機会がなかった。
○ホームシックになった
○バスの本数が少なく、移動にお金がかかる。
○扁桃腺炎になった。

＜なし＞　　39%　（２５名）
○担当者や職場仲間の協力があったため、困ったことは無かった。
○沖縄を故郷のように感じて居心地がよかった。帰国後ブラジルに慣れるのに時間がかかった。
○もっと勉強を続けたかった。

留学中にできた友人や先生との交流



留学中にできた友人や先生との交流

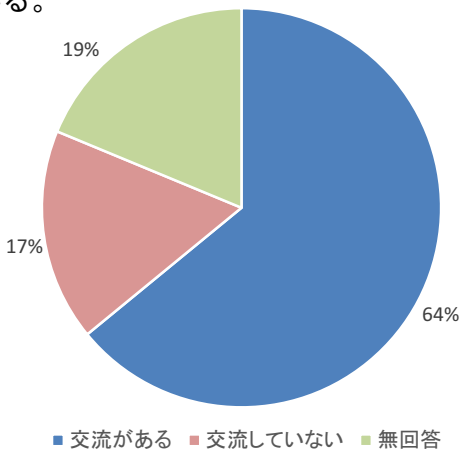
＜交流がある＞　　66%　（４２名）
○ＳＮＳを活用して、互いの近況報告をしている。
○質問をしたり、新しい曲を勉強するときに助言を受けている。
○互いの住んでいる場所（海外・沖縄）に行くときに再会したり、泊めたりしている。

＜全く交流をしていない＞　　20%　（１３名）
○帰国直後は連絡を取り合っていたが、現在は交流はない。
○距離があるため自然と接触しなくなった。

帰国留学生同士の交流

＜交流がある＞　　64%　（４１名）
○連絡を取り合い、互いの国・地域に行ったり、集まったりしたことがある。
○互いの近況報告や活動の内容を共有している。
○距離は離れているが、沖縄で共にした経験は強く残っている。
○Facebook、LINE、電子メール、ブログなど

帰国生同士の交流



＜交流していない＞　　17%　（１１名）
○かつては連絡をとっていたが、現在はしていない。

（現在交流がない方）連絡・交流をしたいと思うか
＜思う＞　　82%　（９名）
○近況を知りたい、技術的・文化的な知識をシェアしたい。
○当時会った留学生を再発見したい。

＜思わない＞　　9%　（１名）
〇ずいぶん昔のことであるし、学校であまり友達はつくらなかった。名桜大に通っていたのが自分一人であったため。ほかの留学生と会えたのは２回くらいだった。

帰国留学生を中心とした組織の有無
※推薦機関は除く。

組織名	国・地域	会員数	活動内容
Hawaii Scholarship Alumini Inspired in Okinawa (HI-SAI Okinawa)	ﾊﾜｲ	20名程度	・過去の留学生のコミュニティーへの参加 ・フォーラムの実施 ・ハワイ沖縄県人会の活動への協力 ・留学生候補者への留学の手伝い、周知。
沖縄県費留学研修生の会（沖留会）	ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ	40名程度	・留学生制度の周知、セミナー、オリエンテーション ・文化の育成、継承のたまての活動（三線、踊り、うちなーぐち） ・講演やワークショップの実施。
うりずん会	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ	150名程度	・沖縄への留学生にサポート ・ブラジルと沖縄の交流を支援 ・沖縄の文化を守ること、沖縄で学んだことを伝えること　など。
さんごしょう	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ（ｶﾝﾎﾟｸﾞﾗﾝﾃﾞ）		メールでのやりとり
キムタカ	ﾍﾟﾙｰ	50名程度	・沖縄文化の普及（文化祭り、セミナーなど） ・留学・研修の経験のシェアや周知 ・県人会の行事への参加、サポート
ボリビア沖縄OB会 レキオス	ボリビア	15名程度	・留学や研修の情報のシェア。 ・ネットワークの構築(国内) ・留学生や研修生のサポート。 ・他国の留学生とのネットワーク。 ・帰国後の活動場。

＜組織はつくられていない　　19%　（１２名）
〇あることは知っているが、情報がわからない
〇知っている限りでは作られていない
〇現時点ではない。

帰国留学生を中心とした組織がある場合、加入しているか。

＜加入している＞　　83%　（２４名）

〇沖縄の文化の発展のために必要なプログラムである。

〇近年、研修への興味が薄れつつあると聞き、少しでも役に立ちたいと思った。

〇加入しているが、活動場所や仕事の関係でなかなか参加できない。

＜加入していない＞　　17%　（５名）

〇できたばかりで声がかからない。

〇まだ帰国していない。

〇年を重ね、別のことで色々とやっていることがある。

〇活動場所や仕事の関係で参加できない。

（組織がない場合）帰国留学生を中心とした組織を作る必要があるか

＜必要がある＞　　69%　（９名）

〇「必然」だとは思わないが、あった方が良いと思った。

〇一番大切なのは情報の交換である。

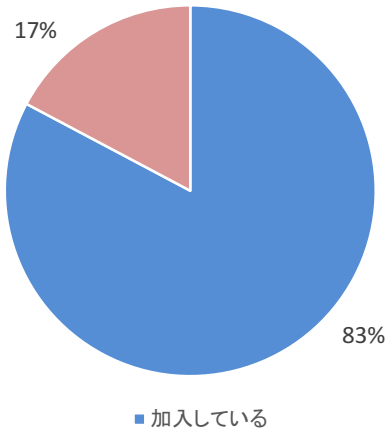
〇次世代が他の文化を経験して、自信をつけるために重要である。

〇経験者の話を聞いて、準備ができることは大切である。

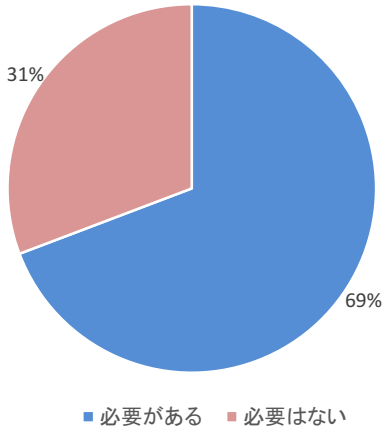
＜必要はない＞　　31%　（４名）

〇同じ地域に留学・研修の経験者が少ない。

組織がある場合、加入しているか



組織が無い場合、作る必要があると思うか



帰国後の県人会活動への参加

＜参加している＞　　56%　（３６名）

〇イベントには全て参加するようにしている。

〇県人会のイベントを企画した。

〇秘書・事務員として働いている。

〇ぶくぶく茶やエイサーを教えたりしている。

〇バザーや募金活動に参加している。

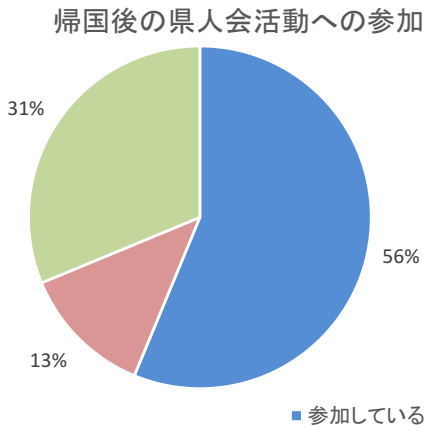
〇なるべく参加したいが、場所や仕事の関係で参加できないことがある。

＜参加していない＞　　13%（８名）

〇仕事の関係で参加できない。

〇マイアミには県人会はない。

〇参加する時間がない。



沖縄県との友好親善のための活動状況

〇あらゆる行事に積極的に参加・企画している。

〇オキナワ移住地での栽培方法の普及活動

〇沖縄で学んだ太鼓をクラスで教えることに関心がある。

〇私の理想は、沖縄がアジアの教育的な交換留学の拠点になることである。

〇三線、太鼓などの沖縄の文化の普及活動をしている。

〇ＩＴ産業を改善したい。

改善して欲しい点

〇沖縄についてすぐのオリエンテーションをしてはどうか。

〇携帯電話の支給

〇離島や北海道、本土への旅行、研修をしてはどうか。

〇もっとより多く、勧誘する。

〇フェイスブックやウェブサイトで現在募集中の奨学金の情報を提供して欲しい。

〇年度や国に関わらず、これまでの留学生が情報交換できる場を作ってほしい。

〇沖縄での留学の様子がわかるウェブサイトやフェイスブックを作る。

〇奨学金の制度を保ち続けること。

〇日本語の要件が厳しい。日本語は話せないが、本当に興味のあるも人の壁になっている

〇三級ていどの日本語の知識があった方がよい。

〇留学生として沖縄で生活するための多言語のハンドブックを作る。

〇県立農業大学校への留学を取り戻す。

〇大きな出費と奨学金の支給時期を一致させることはできないか。